

学生オルガニストたちの声

本多 巧 (神学部4年生)

みなさんは、もうチャペル・アワーに出席されましたか？私たちチャペル・オルガニストは、このチャペル・アワーでの皆さんの祈りの言葉を、音楽に乗せて届けています。

私は、幼い頃からピアノを続けてきました。一時期は音楽大学に進学することも考えていました。この関西学院大学に入学したのも、珍しいパイプオルガンのレッスンを受けることができる、今まで続けてきたピアノの能力を活かしたい、などの気持ちからです。しかし、実際に弾いてみると、ピアノとは異なる楽器であることを実感しました。でも練習することで次第に楽器にも慣れてくるものです。

苦勞して練習した曲を先生に認めてもらったとき、パイプオルガンの荘厳な音に直接触れられたとき、本当にオルガンをやってきてよかったと感じます。また、大学合同チャペルなどの学校行事や年3回のコンサート、日々のチャペル・アワーで大勢の人の前での演奏は、非常に緊張しますが、毎日の練習成果を発揮できる、やりがいのある役割です。

大学生活は忙しいものですが、多くの仲間が両立を目指して頑張っています。オルガニスト同士、日々助け合いながら、研鑽を高めあっています。新しいメンバーとの出会いを、心待ちにしています。



末廣名菜 (総合政策学部3年生)

皆さんは、パイプオルガンの音色に触れた事がありますか？私は関西学院大学に入学しオルガニストとなって、憧れの楽器であったパイプオルガンの音色に魅了される毎日を送っています。

チャペルオルガニストとしての主な活動は、チャペルアワーでの奏楽です。任された役割を毎週続けていくというのは簡単なことではありませんが、それ以上にオルガンの魅力が私を支えてくれています。チャペルへ足を運ぶ皆さんと一体となり、素敵な時間を持つ事が出来るように、私自身が楽しめる演奏、奏楽を心がけています。パイプオルガンはいわば管楽器の集合体ですが、魅力はその響きであるでしょう。オルガンを演奏していると、心が洗われ本当に気持ちの良い癒しの時間を過ごす事が出来るのです。

オルガニストになると、年に2回の研修会、発表会、またクリスマスが近付くと“Sound of Christmas”などといったたくさんの行事を通して、西宮上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパス、神戸三田キャンパスのそれぞれのオルガニスト達とのつながりが出来ます。普段は個々に活動を行っているみんなが集まり、オルガンについて話しまたりいろいろな交流を楽しむ事が出来るので、それもまたチャペルオルガニストの魅力であるでしょう。

初めは不安でいっぱいだった私もチャペルでの奏楽をスタートさせて1年が経ち、大きな責任感と共に讃美歌に親しみ、歌ってもらう喜びを感じ充実した毎日を送っています。

音楽は心のオアシスです。私もオルガンの演奏を通じて、音楽の素晴らしさ・楽しさをより多くの人に伝えていきたいです。そしてかけがえないこの特別な経験を大切にしたいと思います。

お知らせ

♪応募資格・条件

- ・原則として本学1年生。(理工学部、総合政策学部)
- ・4年生まで継続し、その間レッスン(有料)を受けること。
- ・学部チャペルや式典等で奏楽の奉仕をすること。

♪応募方法

「募集要項」「応募用紙」を吉岡記念館宗教センター、神戸三田キャンパス事務室(I号館キャンパス担当)で受け取り、内容を記入した応募用紙はその事務室に提出してください。また、電子メールの添付ファイルでも受付します。E-mail: organist@kwansei.ac.jp

☆募集要項、応募用紙がダウンロードできます。

http://www.kwansei.ac.jp/c_christian/index.html

♪応募期間

5月6日(金)～26日(木)の事務室開室時間

♪オーディション

日時: 5月28日(土) 時間予約制 1人約10分間

場所: 西宮上ヶ原キャンパス 吉岡記念館2階研修室1

*詳しくは「募集要項」をお読みください。

♪レッスン費用

レッスン費用は1年間 1年目80,000円(6月レッスン開始)、2年目以降96,000円(4月レッスン開始)となっています。支払い方法は、1年分一括支払いまたは4回の分割支払いのいずれかを選べます。

♪お問い合わせ・資料請求

関西学院吉岡記念館事務室宗教センター

電話: 0798-54-6018、E-mail: organist@kwansei.ac.jp



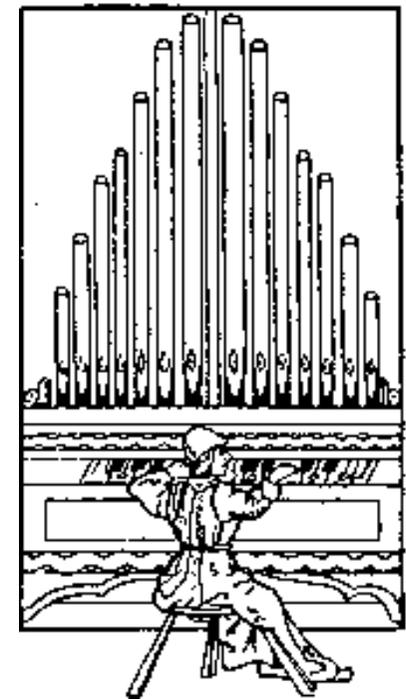
2011年度 関西学院

チャペル・オルガニストへの招き

Chapel Organist

♪各学部チャペル・アワーなどでオルガン奏楽

♪ランバス記念礼拝堂のパイプオルガンで個人レッスン



関西学院吉岡記念館事務室

宗教センター

お問い合わせ・資料請求

電話: 0798-54-6018

E-mail: organist@kwansei.ac.jp

URL: http://www.kwansei.ac.jp/c_christian/index.html

招きのことば

田淵 結
(宗教総主事・教育学部教授)

関西学院は1889年、アメリカ南メソヂスト教会のウォルター・ラッセル・ランバス宣教師によって創設されました。この宣教師の働きの背後に、メソヂスト教会の熱い祈りがあったことはいうまでもありません。つまり、キリスト教がなかったら、関西学院もありえなかったのです。

設立当時制定された関西学院憲法には、「基督教の主義により……知徳兼備の教育を授くるにあり」と記されています。本学の目的は単に高度な知識を得ることにあるのではなく、知徳兼備、バランスのとれた全人教育にあるといえます。

このキリスト教教育の根幹をなしているのが、チャペル・アワーでしょう。各学部のチャペルやランバス・チャペルそして中央講堂などで月曜から金曜まで30分間、午前の最も貴重な時間帯を関西学院大学はチャペル・アワーとして守って来ました。ここに関学で学ぶことの特色が表わされていますし、ここで「関学生らしさ」が体得されることになります。

チャペル・オルガニストはこのチャペル活動に奉仕する人たちです。最も関学らしい場で奉仕する、まさにスクール・モットーである「**Mastery for Service**」を体現する場でもあります。あなたもチャペル・オルガニストとして、関学で学んだことの達成感を味わってみませんか。



チャペル・オルガニストとは

樋口 進
(宗教センター宗教主事、キリスト教と文化研究センター教授)

関西学院は、建学の精神である「キリスト教主義による教育」を重んじています。そしてそのために、毎日1限目と2限目の間の30分間がチャペルの時間とされ、各学部、大学院でチャペルが行われています。

このチャペルにおいては、教職員などによる聖書のメッセージとお祈り、そして出席者全員で歌う讃美歌などがあります。チャペル・オルガニストは、讃美歌の伴奏をし、前奏や後奏を弾いて礼拝を作り上げていく役目を共に担っています。それゆえ、チャペル・オルガニストは関西学院のキリスト教主義教育において重要な役目を果たしています。

オーディションに合格してチャペル・オルガニストになると、専門の先生からパイプオルガンのレッスンを受けることができます。ランバス礼拝堂におけるパイプオルガンの荘厳な響きに深い感動を覚える人が大勢いますが、そのパイプオルガンを実際に演奏することができるのは、

またとない貴重な体験だと思います。

また、春のコンサートや秋の発表会などにおいて、日頃の練習を披露し、多くの方に聞いてもらいます。チャペルの時間のオルガンの演奏に心癒されたとか、ランバス礼拝堂でのパイプオルガンの曲に力や希望が与えられた、という感想を寄せる学生も多くいます。そのようなチャペル・オルガニストにあなたも参加されませんか。



オルガンという楽器

高橋 明子

(関西学院オルガン講師・川口基督教会オルガニスト)

オルガンの起源は古く紀元前3世紀にさかのぼります。笛（パイプ）と風（息）と鍵盤からなるこの楽器は、いわば管楽器の集合体ともいえるもの。今でこそ礼拝には欠く事の出来ないものですが、教会に普及し定着したのは13～14世紀のことです。ゴシック、バロック時代にはヨーロッパを中心に様々な制作者によって名器も生み出され、現在なおその響きを聴くことが出来るのです。

ちなみに今ではモーターで風を送っていますが、その昔はふいごがあり人の力で調節しながら風を送っていました。笛にあたるパイプは木製かメタル製で今でも一本ずつ職人によって作られていて、大きなオルガンになると手鍵盤も3段4段となりパイプの数も数千本にも及びます。

またオルガンにはいろいろな音の高さや音色をもつストップ（音栓）がいくつかあり、その組み合わせで多彩な音楽を奏でることが出来るようになっています。特にロマン派の時代には繊細なソロからダイナミックなフルオーケストラまで演奏出来るオルガンも作られ、楽器の女王としてふさわしい存在になりました。

関西学院には初等部をはじめ、西宮上ヶ原、神戸三田キャンパスのランバス記念礼拝堂、西宮聖和キャンパス山川記念館にパイプオルガンが置かれ、数多くの礼拝や式典に用いられています。初等部は日本の草苴オルガン製で12ストップ609本、西宮上ヶ原キャンパスはドイツ製で15ストップ864本、神戸三田キャンパスはカナダ製9ストップ580本、西宮聖和キャンパスはドイツのボッシュ社製で12ストップ678本です。

これらのオルガンは2段の手鍵盤と2オクターブ半の足鍵盤からなっていますが、パイプオルガンをもとに作られた電子オルガンも演奏台などは同じスタイルで、各学部のチャペルに備えられ、その豊かな音色で讃美の声を支えているのです。

レッスンの実際

太宰 まり

(関西学院オルガン講師・神戸女学院大学講師)

オーディションに合格した人たちは、1年後にチャペル奏楽の奉仕を始められるように、オルガンの基礎から学び始めます。月2回のレッスンを受けて、実際の運指法や足鍵盤の使い方、楽器の仕組みなどを勉強し、同じ鍵盤楽器ではありながらピアノとはずいぶんちがうことに少しずつ慣れていきます。足鍵盤は初めてという人が殆どですが、それぞれに新しいことへの挑戦を楽しく経験します。

チャペルでのオルガニストは多くの人の讃美の歌声の支えとならねばなりません。そのためにどのように讃美歌を弾けばよいのか、また、前奏・後奏はどうしたらよいかなど、いろいろな角度から奏楽者としての研鑽も積み、その技術に支えられて大きな誇りを持って奉仕に当たります。

オルガンは教会の歴史の中で成長してきた楽器です。バッハは生涯の大半を教会オルガニストとして過ごし、その作品の多くは実際の礼拝のために作られたものです。他にもメンデルスゾーン、モーツァルト、メシアンなど私たちの知っている多くの作曲家がオルガニストとしての側面を持っていました。レッスンでは、そのような人たちの作品も含め、バロックから現代にいたる様々な音楽の魅力に触れながら、曲をひとつずつ仕上げていく楽しみや、演奏することのすばらしさを体験していきます。

オルガンの魅力の虜となったレッスン生の何人かは、ついには本職のオルガニストやオルガン製作者となりました。そうでない人たちも、それぞれの生き方の中で、やはり学生時代の思い出をかけがえのないものとしています。今年もチャペル・オルガニストたちは、練達の中に見つけた音楽の喜びを、チャペルの奉仕の場へと還元し、よりよき奏楽者としての働きが出来るように祈りつつ励んでいます。

